

この世の美は
まばたきを
求めている



LEOS CARAX

IT'S NOT ME

イツツ・ノット・ミー

レオス・カラックス監督作品

出演：ドニ・ラヴァン、カテリーナ・ウスビナ、ナスチャ・ゴルベワ・カラックス、ロレタ・ユオカイト
アンナ・イザベル・シーフケン、ベトル・アネフスキー、ヒアンカ・マツダルーノ

CG CINEMA & THEO FILMS Present IT'S NOT ME DENIS LAVAN KATERINA YUSPINA NASTYA GOLUBEVA CARAX BIANCA MADIALONO ANNA ISABEL STELFEN PEIY ANLYSKII
Cinematography CAROLINE CHAMPETIER, AFC Production design FLOBIAN SANSON Proprietors ROMUALD COLLINET, ESTELLE CHARLIER Costumes PASCALINE CHAVANNE Make-up & hair BERNARD FLOCH
Film researcher SOPHIE LINER Director's assistants THOMAS COLBAN, JULIETTE PICCOLOT Sound LUCAS DOMEJEAN Hair recording MARI THOMAS GAUDER
Editing assistants NINA TOLDOIE, MAXIME MATHIS, MIA COLLINS, INES TOLDOIE Color grading & special effects FREDERIC SAVOIR Postproduction supervisor EUGENIE DEPLUS Production manager NILS ZACHARIASEN
Associate Producer TATIANA BOUCHAIN a film Produced by CHARLES GILBERT & LC a CG CINEMA, THEO FILMS, ARTEFRANCE CINEMA
Coproduction with The Participation of ARTE-FRANCE, CHANEL, LES FILMS DU LOSANGE with The Support of CEMIRE NATIONAL DU CINEMA ET DE L'IMAGE ANIMÉE and RÉGION ÎLE DE FRANCE
French Distribution LES FILMS DU LOSANGE, in association with SCALA FILMS International sales LES FILMS DU LOSANGE

カラックスの記憶と思考の中に呑み込まれる、魔法のような42分。

LEOS CARAX

IT'S NOT ME

僕らには、まばたきが必要なんだ。
世界の美はそれを求めている。

ついで実現しなかった展覧会のために、
ポンピドゥー・センターは映画監督に、
この質問への回答を映像で求めた。
「レオス・カラックス、いま君はどこにいる？」
彼は答えようとした——でも謎ばかりだ。
彼について、そして“彼”の世界について。
「分からない。でも分かれば、こう答えるだろう…」
——レオス・カラックス

100%カラックス映画、心揺さぶる自画像

レオス・カラックス最新作『IT'S NOT ME イッツ・ノット・ミー』。それは「これは私ではない」と題されたセルフポートレート。カラックスが初めて自ら編集しためまいのようなコラージュ。「鏡を使わず、後ろ姿で描かれた」自画像。子供の初めての嘘（フィクション）のような「僕じゃない」という言い訳——。

2024年のカンヌ国際映画祭プレミア部門で初公開され、大きな注目と関心を集めた本作は、ルモンド紙が「五つ星・傑作」としたのを始め、「ゴダールの精神的後継者による心揺さぶるエッセイ」「カラックスのとてつもない宇宙」と高く評価された。アメリカでも秋のニューヨーク映画祭で「多彩なヴィジュアルスタイルのシネエッセイ」「2024年の最も颯爽とした映画」と高評が続き、同映画祭に参加していたイザベル・ユペールも「100%レオス・カラックス映画。この映画にとても心を動かされた」と語っている。

イメージと音の奔流、間断なく入る文字・声・音楽。次々と引用される映画・写真・動画。カラックスの記憶と思考の中に呑み込まれる、魔法のような42分。

パリの現代美術館ポンピドゥーセンターはカラックスに白紙委任する形で展覧会を構想していたが、「予算が膨らみすぎ実現不能」になり、ついに開催されることはなかった。その展覧会の代わりとして作られたのが『IT'S NOT ME イッツ・ノット・ミー』である。

ポンピドゥーセンターからの問いかけは、カラックスの今いる位置を聞いたものだったが、カラックスはそれをもっと根源的に捉え直し、自分がどこから来てどこへ行くのかという答えのない謎に地の底から響くような低い声で口籠りながら語ってゆく。家族について、映画について、20世紀と独裁者と子供たちについて、死者たちについて、そして「エラン・ヴィタル（生の飛躍、生命の躍動）」（ベルクソンの言葉）について。

ゴダール（1930-2022）の後期のエッセイ・スタイルへのオマージュではあるものの、ゴダールが思案的・分析的なのに対し、カラックスはずっと夢想的・連想的にみえる。ホームビデオから映画、音楽、写真とさまざまなジャンル、フォーマットの映像を夢の断片のようにコラージュしながら自身のポートレイトをプライベートにダイレクトに描く。そこにはストーリーも結論もないが、至る所に見る者の心を揺さぶる声や瞬間がある。難民の子供の遺体に重なるジョナス・メカスの声。留守電に残されたゴダールの伝言。娘のナスチャがピアノで奏でるミシェル・ルグランの「コンチェルト」のテーマ。主観ショットで捉えられた『汚れた血』のジュリエット・ピノシュ。『ポーラX』のギョーム・ドパルデュー（1971-2008）とカテリーナ・ゴルベワ（1966-2011）。盟友だった撮影監督ジャン＝イヴ・エスコフィエ（1950-2003）への献辞。その後で、不意に訪れる驚嘆すべき素晴らしい終幕——。すべてが親密で私的で詩的なカラックスからのメッセージだ。

『IT'S NOT ME イッツ・ノット・ミー』 第77回カンヌ国際映画祭カンヌ・プレミア部門正式出品 監督:レオス・カラックス/撮影:カロリーヌ・シャンブティエ
出演:ドニ・ラヴァン、カテリーナ・ウスピナ、ナスチャ・ゴルベワ・カラックス フランス/42分/2024年/カラー&モノクロ/1.78:1 『C'est Pas Moi』/英語題『It's Not Me』 配給:ユーロスペース



4.26.Satよりユーロスペースほか全国ロードショー